

複合抗体の中に抗 Yk<sup>a</sup> が検出され判定に苦慮した 1 例

◎加藤 宙良<sup>1)</sup>、村上 育子<sup>1)</sup>、大槻 剛史<sup>1)</sup>、渡辺 太治<sup>1)</sup>  
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院<sup>1)</sup>

【はじめに】 Knops 血液型の Yk<sup>a</sup> 抗原は高頻度抗原の 1 つでありそれに対する抗 Yk<sup>a</sup> は輸血や妊娠による免疫抗体である。また、個々の赤血球で抗原量にばらつきがあるため抗体の反応には強弱があり同定することが難しい抗体とされている。今回、複合抗体の中に抗 Yk<sup>a</sup> が検出され判定に苦慮した 1 例を報告する。

【症例】患者は 40 代女性。妊娠歴なし。輸血歴あり。慢性腎不全により透析中であった。呼吸苦を主訴に Hb6.7g/dl で RBC4 単位の輸血依頼となった。

【結果】輸血前検査では、血液型 O 型 RhD 陽性。カラム凝集法による不規則抗体スクリーニング検査陽性。パネル血球を用いた抗体同定検査は酵素法で抗 E と抗 c が疑われたが、間接抗グロブリン試験(LISS-IAT)で自己対照を除く全ての血球に 1+~3+ と強弱のある反応を認めた。抗 E と抗 c を含む複合抗体の存在を疑い近畿ブロック血液センターへ精査を依頼した。その結果、1 カ月前に輸血を行っていたため参考値ではあるが患者の血液型は O, RhD 陽性, CC<sub>cc</sub>, MN<sub>ss</sub>, Fy(a+b-), Jk(a+b+), Di(a-b+), Yk(a-)であっ

た。血清中には抗 E と抗 c と抗 Yk<sup>a</sup> が確認された。抗 Yk<sup>a</sup> の IgG サブクラスは IgG1, 単球貪食能試験は陰性であった。以上より、O 型 E(-), c(-), S(-), Fy(b-), Di(a-)製剤 4 単位を輸血した。そのうち 2 単位は交差適合試験で不適合であったが Hb 値は 9.7 g/dl に上昇し輸血後の明らかな溶血性副反応は認められなかった。

【まとめ】今回、複合抗体の中に抗 Yk<sup>a</sup> が検出され判定に苦慮した 1 例を経験した。輸血した 4 単位のうち 2 単位は不適合血であったが過去に報告された症例と同様に本症例も溶血性副反応は認められなかった。本症例は複合抗体を保持していたが酵素法の結果より抗 E と抗 c を推定することができ酵素法の有用性を感じた。

(連絡先 : 0773-62-2510 代表)